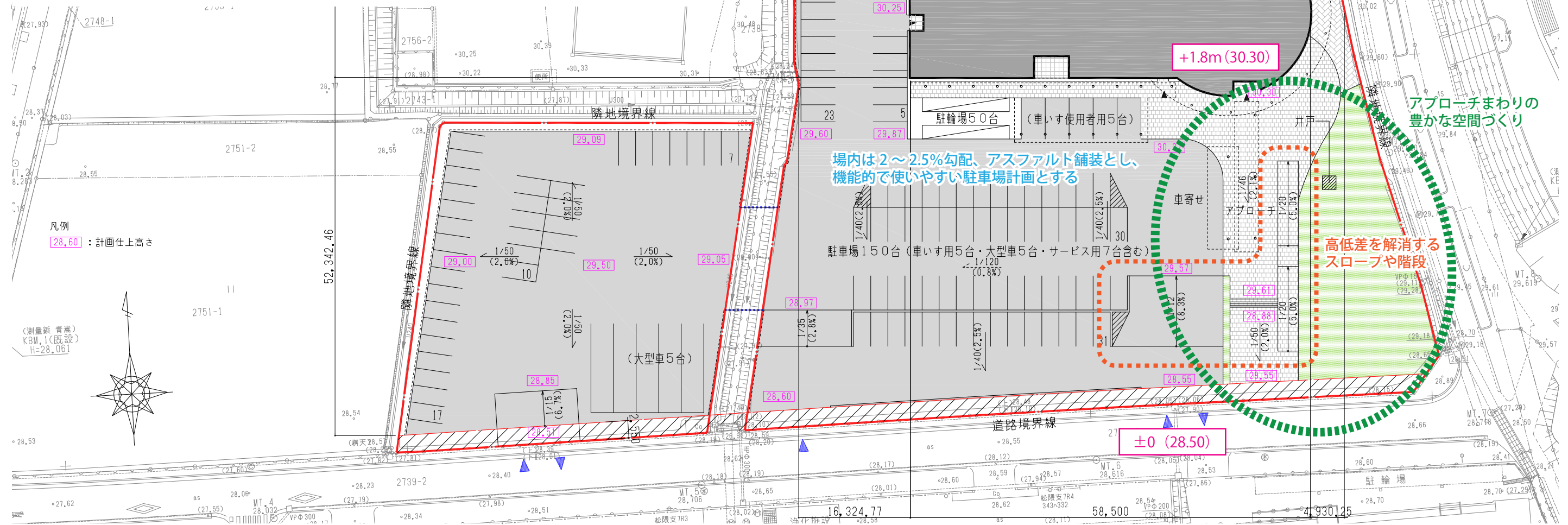


8. 外構計画

- 敷地の北側が南側より 2.5m程度高くなっているため、南側からゆるやかに北側に向かって上っていく計画とします。
- 敷地南側道路から建物までのアプローチで約 1.8m上る計画とし、敷地東側の田手川沿いの道路と建物 1 階床の高低差を少なくすることにより、田手川親水公園側へスムーズな出入りができるように計画します。
- 敷地南側道路から建物までのアプローチで約 1.8m上るため、アプローチや車寄せまわりに階段やスロープを設置する計画とします。
- 駐車場部分は 2 ～ 2.5%程度の勾配とし、雨水排水を適切に確保するとともに、使い勝手の良い駐車場計画とします。
- 外構仕上は、建物へのアプローチまわりをインターロッキングブロック敷きとし、緑地を配置して、豊かな空間づくりを行う一方、駐車場部分等はアスファルト舗装のみとして機能性を重視した仕上とするなど、場所によってメリハリを付けた仕上とし、コスト抑制に配慮した外構仕上計画とします。
- インターロッキングブロックは雨水の流出量抑制などに配慮し、透水性のものを採用する計画とします。



9. 環境・省エネルギー計画

計画概要

- ・ 外壁、屋根まわりは断熱材を施すとともに、窓は気密性の高いアルミサッシとし、ガラスは複層ガラスを採用するなど、建物全体を高断熱・高気密とし、空調負荷低減を図る計画とします。
- ・ 西側のスポーツラウンジや南側のラウンジを通じて、アリーナに自然通風を取り入れる計画とします。
- ・ ランニングコース沿いやアリーナ上部には窓を配置し、アリーナに自然採光、自然通風を積極的に取り入れる計画とします。
- ・ アリーナ上部の窓には電動の遮光カーテンを配置し、イベント利用時などの日射制御を容易に行うことができる計画とします。
- ・ 一年を通して比較的気温が安定している地下ピットを通過させた外気を、機械室の空調機に導入する等して利用し、空調負荷低減を図る計画とします。
- ・ 建物屋根に太陽光発電パネルを設置し、建物で使用する電力の一部を賄うことにより、環境負荷低減を図る計画とします。
- ・ 井水を建物の雑用水や外構の散水などに利用し、環境負荷低減を図る計画とします。

